

Sophos Enterprise Console アップグレードガイド

製品バージョン: 5.0

ドキュメント作成日: 2011年 12月



目次

| | |
|--|----|
| 1 このガイドについて..... | 3 |
| 2 アップグレードのステップ..... | 3 |
| 3 システム要件..... | 3 |
| 4 必要なアカウント..... | 4 |
| 5 インストーラのダウンロード..... | 4 |
| 6 Enterprise Console のアップグレード..... | 5 |
| 7 既存のポリシーの確認..... | 5 |
| 8 エンドポイントコンピュータのアップグレード..... | 6 |
| 9 Compliance Dissolvable Agent のアップグレード..... | 20 |
| 10 テクニカルサポート..... | 21 |
| 11 ご利用条件..... | 21 |

1 このガイドについて

このガイドでは、次の項目について説明します。

- Enterprise Console 5.0
- Endpoint Security and Control 10.0 for Windows
- NAC Manager 3.9 (任意)
- Compliance Dissolvable Agent 3.9 (任意)

NAC Manager および Compliance Dissolvable Agent は、Sophos NAC を使用している場合のみアップグレードする必要があります。

チップ: Enterprise Console のインストーラには、インストールのアドバイザーツールが内蔵されています。アップグレードを行う前にシステム要件を確認し、アップグレードに関するアドバイスを参照することができます。

2 アップグレードのステップ

アップグレード作業の流れは次のとおりです。

- システム要件を確認する。
- 必要なアカウントを確認する。
- インストーラをダウンロードする。
- Enterprise Console (および任意で NAC Manager) をアップグレードする。
- 既存のポリシーをチェックする。
- エンドポイントコンピュータをアップグレードする。
- Compliance Dissolvable Agent をアップグレードする (任意)。

3 システム要件

ソフォス Web サイトの「システム要件」(<http://www.sophos.co.jp/products/all-sysreqs.html>) を参照してください。

4 必要なアカウント

Enterprise Console をアップグレードする際、データベースのアカウント情報の入力が必要になることがあります。これは、既存のアカウントが要件を満たさなくなった場合に必要な操作です。

アカウントに次の権限があることを確認してください。

- ソフォスの管理サーバーがインストール済みのコンピュータにログオンできる。
- システムの一時ディレクトリ (\windows\temp\ など) に読み取り権限と書き込み権限がある。「Users」グループのメンバーには、デフォルトでこの権限があります。
- ドメインアカウントの場合は、UPN (ユーザープリンシパル名) が関連付けられている。

これ以外にアカウントで必要となる権限およびグループのメンバーシップは、アップグレード時に自動的に付与されます。

以下のようにアカウントを設定することを推奨します。

- 期限切れしない設定にする。また、その他のログオン制限を指定しない。
- アカウントに管理者権限がない。
- アップグレード後、アカウントを変更しない。

詳細はソフォス サポートデータベースの文章 113954 を参照してください (<http://www.sophos.co.jp/support/knowledgebase/article/113954.html>)。

5 インストーラのダウンロード

ヒント: インストーラは任意のコンピュータにダウンロードし、その後、ソフトウェアをインストールするコンピュータにコピーすることもできます。

1. <http://www.sophos.co.jp/support/updates/> にアクセスします。
2. MySophos アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
3. **Enterprise** の製品ダウンロードページで、次の操作を実行します。
 - Enterprise Console のインストーラをダウンロードします。
 - NAC Manager を利用する場合は、Sophos NAC のインストーラをダウンロードします。

4. 任意のコンピュータにダウンロードした場合は、ソフトウェアのインストール先コンピュータにインストーラをコピーします。
または、CD や DVD にインストーラをコピーし、インストール先コンピュータで使います。

6 Enterprise Console のアップグレード

チップ: Enterprise Console のインストーラには、インストールのアドバイザーツールが内蔵されています。アップグレードを行う前にシステム要件を確認し、アップグレードに関するアドバイスを参照することができます。

ヒント: NAC Manager をインストール済みの場合、Enterprise Console のインストーラはそれを検出し、NAC Manager をはじめにアップグレードするよう指示します。操作方法もすべて表示されます。

Enterprise Console のアップグレード方法は次のとおりです。

1. Enterprise Console をアップグレードするコンピュータに管理者権限でログインします。
 - サーバーがドメインに属している場合は、ローカル管理者権限を持つドメインアカウントを使用してください。
 - サーバーがワークグループに属している場合は、ローカル管理者権限を持つローカルアカウントを使用してください。
2. 先にダウンロードした Enterprise Console のインストーラを参照します。

チップ: インストーラのファイル名には「sec」という文字列が含まれません。
3. インストーラをダブルクリックします。
4. ウィザードの指示に従ってアップグレードを行います。
アップグレードに必要な操作すべてをウィザードで対処できない場合は、自動的にアドバイザーツールが起動し、追加情報が表示されます。

7 既存のポリシーの確認

7.1 ポリシーの設定内容を確認する

ヒント: ロールベースの管理を利用している場合、ここでのタスクを実行するには「コンピュータの検索、保護、およびグループ」権限が必要です。サ

ブ管理サイトの詳細は、**Sophos Enterprise Console ヘルプ**の「ルールとサブ管理サイトを管理する」のセクションの「ルールとサブ管理サイトについて」を参照してください。

Enterprise Console のアップグレード後、既存のポリシーの設定内容が維持されていることを確認する方法は次のとおりです。

1. Enterprise Console を起動します。
2. 「ポリシー」ペインで、「ウイルス対策および HIPS」など、確認するポリシーのタイプをダブルクリックします。
3. 確認するポリシーをダブルクリックします。
4. 表示されるダイアログボックスで、ポリシーの設定内容を確認します。

7.2 コンピュータのグループに適用されているポリシーを確認する

ヒント: ロールベースの管理を利用している場合、ここでのタスクを実行するには「コンピュータの検索、保護、およびグループ」権限が必要です。サブ管理サイトの詳細は、**Sophos Enterprise Console ヘルプ**の「ルールとサブ管理サイトを管理する」のセクションの「ルールとサブ管理サイトについて」を参照してください。

Enterprise Console のアップグレード後、各グループに正しいポリシーが適用されていることを確認する方法は次のとおりです。

1. Enterprise Console を起動します。
2. 「グループ」ペインで、グループを右クリックし、「グループポリシーの詳細の表示/編集」をクリックします。
3. 「グループの詳細」ダイアログボックスで、適切なポリシーがグループに適用されていることを確認します。適用されていない場合は、ポリシーの種類ごとに、ドロップダウンリストから適切なポリシーを選択してください。

8 エンドポイントコンピュータのアップグレード

8.1 エンドポイントコンピュータのアップグレードについて

Windows エンドポイントコンピュータをアップグレードして新機能を活用するには、各コンピュータで最新の状態に保つソフトウェアのバージョンを Sophos Endpoint Security and Control 10.0 に変更する必要があります。

ここで説明する操作によって、Compliance Agent for NAC (NAC Manager を使用している場合)を含む、セキュリティソフトのコンポーネントすべてがアップグレードされます。

8.2 アップグレード方法

エンドポイントコンピュータをアップグレードする方法には、次の2とおりがあります。

- 最新版のセキュリティソフトを**即時**に使用開始するには、すべてのエンドポイントコンピュータを一度にアップグレードします。

詳細は、[今すぐエンドポイントコンピュータをアップグレードする](#) (p.7) を参照してください。

- すべてのコンピュータをアップグレードする前に、最新版のセキュリティソフトをテスト環境で使用するには、エンドポイントコンピュータを段階的にアップグレードします。

詳細は、[新しいエンドポイント用ソフトウェアのサブスクリプションを設定する](#) (p.9) を参照してください。

8.3 アップグレード可能なバージョン

このセクションでは、次のアップグレードシナリオについて説明します。

- Sophos Endpoint Security and Control バージョン 9.0/9.5 をバージョン 10.0 にアップグレードする
- Sophos Anti-Virus 7 と Sophos Client Firewall 1.5 を Sophos Endpoint Security and Control 10.0 にアップグレードする

8.4 今すぐエンドポイントコンピュータをアップグレードする

今すぐ Windows コンピュータをアップグレードするには、新しいバージョンのエンドポイント用セキュリティソフトをダウンロードするよう、既存のソフトウェアのサブスクリプションを変更します。

既存のソフトウェアのサブスクリプションを変更する方法は次のとおりです。

1. Enterprise Console の「表示」メニューで、「アップデートマネージャ」をクリックします。

2. 「ソフトウェアのサブスクリプション」 ペインで、変更するサブスクリプションをダブルクリックします。

「ソフトウェアのサブスクリプション」 ダイアログボックスが表示されます。

3. 「**Windows 2000 以降**」の横で「バージョン」 フィールドをクリックし、再度クリックします。
4. 利用可能なバージョンのリストから、「**10.0推奨バージョン**」を選択します。

次回、Enterprise Console がアップデート版をダウンロードする際、新しいバージョンのエンドポイントソフトがダウンロードされます。その後、Windows コンピュータは、自身をバージョン10.0に自動アップグレードします。

他に設定の必要はありません。

- 対象のサブスクリプションを管理し、ネットワーク上のアップデート用共有フォルダにソフトウェアを配布するように、アップデートマネージャの設定が完了しています。
- 対象のサブスクリプションを参照するアップデートポリシーが Windows コンピュータに適用されています。

注

- パッチエージェントを Windows コンピュータにインストールするには、「**コンピュータの保護**」 ウィザードを使用してコンピュータを再保護する必要があります。コンピュータに以前のバージョンの Sophos Endpoint Security and Control がインストールされている場合でも操作が必要です。詳細は、Sophos Enterprise Console ヘルプの「**コンピュータを保護する**」を参照してください。
- Sophos Client Firewall のインストール中、ネットワークアダプタが一時的に切断されます。また、リモート デスクトップなどのネットワークアプリケーションが切断されることがあります。
- Sophos Endpoint Security and Control 10.0 にアップグレード後、各コンピュータに対して、Enterprise Console のコンピュータの詳細の「**ポリシーコンプライアンス**」 カラムに「ポリシーと異なる」と表示されることがあります。これを修正するには、コンピュータを右クリックして「**ポリシーの適用**」をクリックし、該当するポリシー (複数可) をクリックします。

8.5 段階的にエンドポイントコンピュータをアップグレードする

8.5.1 新しいエンドポイント用ソフトウェアのサブスクリプションを設定する

新しいソフトウェアのサブスクリプションを作成する

実際の運用環境に展開する前に、小規模なコンピュータのグループで、新しいソフトウェアをテストする場合、新しいサブスクリプションを作成できます。

新しいサブスクリプションを作成したら、次のステップを実行してください。

- サブスクリプションを管理するよう、アップデートマネージャを設定する。ソフォスのサーバーからソフトウェアをダウンロードし、エンドポイントコンピュータが接続するネットワーク共有に配置するように設定します。
- 新しいアップデートポリシーを作成する。新しいサブスクリプションを選択し、エンドポイントの接続先にアップデート用共有フォルダを指定します。
- エンドポイントコンピュータのソフトウェアをアップグレードする。新しいアップデートポリシーをコンピュータに適用します。

重要: SP3 以前の Windows 2000 を実行しているコンピュータでは、Sophos Endpoint Security and Control 10.0 にアップグレードしないでください。本ソフトウェアは、Windows 2000 SP4 以降のみにインストールできます。

既存のバージョンを使い続ける

固定バージョンの Sophos Endpoint Security and Control と Compliance Agent for NAC に登録している場合、それをそのまま使い続けることもできます。同バージョンの製品サポートが終了すると、「ソフトウェアのサブスクリプション」ダイアログボックスで、「ソフォスのサポートが終了した固定バージョンのソフトウェアを自動アップグレードする」チェックボックスを選択している場合、コンピュータのソフトウェアは自動的にアップグレードされます。

運用環境に展開する前に、新しいバージョンのソフトウェアを評価する場合は、評価を実施する間、固定バージョンのソフトウェアを運用環境で利用す

ることもできます。固定バージョンの場合、脅威検出データは更新されますが、ソフトウェアは毎月リリースされる最新バージョンに更新されません。

既存のバージョンのソフォスのエンドポイントセキュリティ製品を使用している場合、それをそのまま使い続けることもできます。しかし、エンドポイントコンピュータのソフトウェアは、いずれ、バージョン 10.0 に自動的にアップグレードされます。なお、自動アップグレードが行われる前に事前通知があります。

8.5.2 新しいソフトウェアのサブスクリプションを作成する

新しいソフトウェアのサブスクリプションを作成する方法は次のとおりです。

1. Enterprise Console の「表示」メニューで、「アップデートマネージャ」をクリックします。
2. 「ソフトウェアのサブスクリプション」ペインの上部にある「追加」ボタンをクリックし、新しいサブスクリプションを作成します。

「ソフトウェアのサブスクリプション」ダイアログボックスが表示されます。

または、既にあるサブスクリプションのコピーを作成するには、コピーするサブスクリプションを選択して右クリックし、「サブスクリプションの複製」をクリックします。新しい名前を入力したら、サブスクリプション名をダブルクリックし、「ソフトウェアのサブスクリプション」ダイアログボックスを開きます。

3. 「ソフトウェアのサブスクリプション」ダイアログボックスで、必要に応じて、サブスクリプションの名前を変更します。
4. Windows 2000 以降の横の「バージョン」フィールドをクリックし、続けてもう一度クリックします。

ダウンロード可能なバージョンが、ドロップダウンリストに表示されません。

5. バージョン 10.0 の Sophos Endpoint Security and Control に対してダウンロードするアップデート版の種類を選択します。

通常、ソフトウェアを自動的に最新の状態に保つために、「推奨バージョン」を選択します。利用可能なアップデート版の種類については、[利用可能なアップデート版の種類](#) (p. 11) を参照してください。

重要: 固定バージョン(10.0.1など)を選択する場合は、「**ソフォスのサポートが終了した固定バージョンのソフトウェアを自動アップグレードする**」チェックボックスを選択することを推奨します。製品サポートが終了しているソフトウェアを使用している場合、新しいセキュリティ脅威から保護されないことに注意してください。

新しいソフトウェアのサブスクリプションを作成後、[新しいサブスクリプションをダウンロードするようにアップデートマネージャを設定する](#) (p. 13) の説明に従い、作成したサブスクリプションがアップデートマネージャによってダウンロードされるように設定します。

さらに、サブスクリプションに関するメール警告を設定することもできます。ソフトウェアのサブスクリプションに関するメール警告の詳細は、Sophos Enterprise Console ヘルプの「警告およびメッセージの設定」のセクションにある「サブスクリプションの警告を設定する」トピックを参照してください。

8.5.3 利用可能なアップデート版の種類

製品ソフトのバージョンは、ソリューション(例: Sophos Endpoint Security and Control 9)や、プラットフォーム(例: Windows 2000以降)の各メジャーバージョンに対して複数存在します。ソフォスからダウンロードし、各エンドポイントコンピュータに配布するソフトウェアのバージョンを選択するには、サブスクリプションのアップデート版の種類を指定します。選択可能なアップデート版は、3種類のラベル付きバージョンと、3種類の固定バージョンです。

ラベル付きバージョン

ラベル付きバージョンは次の3種類です。

| ラベル名 | 説明 |
|---------|---|
| 推奨バージョン | 最新の製品の利用に最も適したバージョン。通常、最新バージョンのリリースと同時に、各エンドポイントにソフトウェアを配信することを推奨します。 |

| ラベル名 | 説明 |
|-----------|--------------------------------------|
| 1つ前のバージョン | 前回まで「推奨バージョン」に指定されていたバージョン。 |
| 最も古いバージョン | 製品のアップデート版が提供されているバージョンの中で最も古いバージョン。 |

ヒント: 今後、新しいラベル付きバージョンが追加される可能性もあります。

「セキュリティソフトのダウンロード」ウィザードでは、選択したソフトウェアの推奨バージョンを指定するサブスクリプションが設定されます。

ラベル付きバージョンを選択すると、通常、実際にダウンロードされるバージョンは、毎月変わります。

固定バージョン

固定バージョンの場合、脅威検出データは更新されますが、ソフトウェアは毎月リリースされる最新バージョンに更新されません。

運用環境に展開する前に、新しいバージョンのソフトウェアを評価する場合は、評価を実施する間、固定バージョンのソフトウェアを運用環境で利用することもできます。

各OSに対し、通常、過去3ヶ月間にリリースされた3種類の固定バージョンが存在します。たとえば、Sophos Endpoint Security and Control for Windows 2000以降バージョン9.4.3は固定バージョンの1つです。

固定バージョンは、ソフォスからダウンロードが可能な限り、ダウンロードされます。固定バージョンの製品サポートが終了する際は、「アップデートマネージャ」ビューで、当該のバージョンのサブスクリプションを指定しているアップデートマネージャの横に警告が表示されます。メール警告が有効になっている場合は、管理者宛てにも警告がメール送信されます。

サブスクリプションに指定した固定バージョンの製品サポートが終了すると、Enterprise Consoleのデフォルト設定で、サポート中の製品で最も古いバージョンがサブスクリプションに指定されます。

ヒント: この設定を変更するには、「ソフォスのサポートが終了した固定バージョンのサブスクリプションを自動アップグレードする」チェックボックスの選択を外してください。ただし、製品サポートが終了しているソフトウェアを使用している場合、新しいセキュリティ脅威から保護されないことに注意してください。したがって、製品サポートが終了しているソフトウェアについては、早急なアップグレードを推奨します。

8.5.4 新しいサブスクリプションをダウンロードするようにアップデートマネージャを設定する

新しいソフトウェアバージョン用のサブスクリプションを作成した場合、次に、作成したサブスクリプションをダウンロードするようにアップデートマネージャを設定します。

新しいサブスクリプションをダウンロードするようにアップデートマネージャを設定する方法は次のとおりです。

1. 「アップデートマネージャ」ビューで、アップデートマネージャを選択して右クリックし、「**環境設定の表示/編集**」をクリックします。
2. 「アップデートマネージャの環境設定」ダイアログボックスの「**サブスクリプション**」タブで、「**選択可能アイテム**」リストからソフトウェアのサブスクリプションを選択します。
サブスクリプションに含まれるソフトウェアなどの詳細を表示するには、「**詳細の表示**」をクリックします。
3. 選択したサブスクリプションを「**ダウンロードするサブスクリプション**」リストに移動するには、「>」ボタンをクリックします。

ソフトウェアは、デフォルトでUNC共有の\\<コンピュータ名>\SophosUpdateにダウンロードされます。ここで、<コンピュータ名>は、アップデートマネージャをインストールしたコンピュータの名前です。追加の共有を指定することもできます。詳細は[ソフトウェアの配置場所を指定する](#) (p. 13) を参照してください。

直ちに新しいバージョンをダウンロードする場合は、アップデートマネージャを選択し、右クリックして、「**今すぐアップデート**」をクリックしてください。

8.5.5 ソフトウェアの配置場所を指定する

ダウンロードするソフトウェアを選択したら、ネットワーク上のソフトウェアの配置場所を指定します。デフォルトで、ソフトウェアは、UNC共有の\\<コンピュータ名>\SophosUpdateに配置されます。ここで、<コンピュータ名>は、アップデートマネージャをインストールしたコンピュータの名前です。

ダウンロードしたソフトウェアは、複数のネットワーク共有フォルダに配布できます。設定するには、選択可能なネットワーク共有フォルダのリストに、既存のフォルダを追加し、次の手順で、アップデート版を配置するフォルダのリストに移動します。

ソフトウェアの配置場所を指定する方法は次のとおりです。

1. 「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**配布**」タブで、リストからソフトウェアのサブスクリプションを選択します。
2. 「**選択可能アイテム**」リストから、ネットワーク共有フォルダを選択し、「>」ボタンをクリックして「**アップデート先**」リストに移動します。

デフォルトのネットワーク共有フォルダ \\<コンピュータ名>\SophosUpdate は、常に、「**アップデート先**」リストに表示されます。このネットワーク共有フォルダはリストから削除できません。

「**選択可能アイテム**」リストには、Enterprise Console で認識され、他のアップデートマネージャで使用されていない、すべてのネットワーク共有フォルダが含まれます。

「**選択可能アイテム**」リストに既存のネットワーク共有フォルダを追加、またはリストから削除するには、「**追加**」ボタンや「**削除**」ボタンを使います。

3. ネットワーク共有フォルダの詳細や、書き込みに必要なアカウント情報を入力する場合は、対象のネットワーク共有を選択し、「**環境設定**」をクリックします。
4. 「**共有マネージャ**」ダイアログボックスで、詳細とアカウント情報を入力します。

選択したソフトウェアは、次回行われるスケジュールアップデート時に、指定した共有フォルダへダウンロードされます。

デフォルトのアップデートスケジュールを編集する場合は、[アップデートスケジュールを編集する](#) (p. 14) を参照してください。

今すぐソフトウェアをダウンロードする場合は、アップデートマネージャを選択し、右クリックして、「**今すぐアップデート**」をクリックしてください。

8.5.6 アップデートスケジュールを編集する

デフォルトで、アップデートマネージャは、10分間隔で脅威検出データのアップデート版をチェックします。このアップデートの間隔は変更できます。最短の間隔は5分です。最長の間隔は、1440分 (24時間) です。ソフォスから検出データがリリースされた直後に保護を入手できるように、脅威検出データのアップデート間隔は、10分に設定することを推奨します。

デフォルトで、アップデートマネージャは、60分間隔でソフトウェアのアップデート版をチェックします。このアップデートの間隔は変更できます。最短の間隔は10分です。最長の間隔は、1440分(24時間)です。

ソフトウェアのアップデート版については、チェック頻度を毎日1時間に1回に設定するか、または、曜日ごとに設定を行ったり、各曜日の時間帯ごとに異なるアップデート頻度を設定するなど、さらに詳細なスケジュールを設定できます。

ヒント: 曜日ごとに異なるスケジュールを作成することもできます。各曜日に適用できるスケジュールは1つだけです。

デフォルトのスケジュールを変更する方法は次のとおりです。

- 「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**スケジュール**」タブで、アップデート版のチェック頻度を変更したり、さらに詳細なスケジュールを作成したり、曜日ごとに異なるスケジュールを作成してください。

また、随時、アップデートマネージャのログ、および自己アップデートのデフォルト設定を変更することもできます。それぞれ、「**ログ**」タブ、および「**詳細設定**」タブで、設定内容を編集してください。

8.5.7 アップデートポリシーを設定する

新しいソフトウェアのサブスクリプションを作成し、作成したサブスクリプションをダウンロードするようにアップデートマネージャを設定した場合は、次に、アップデートポリシーを設定してください。サブスクリプションで指定したソフトウェアのアップデート版を配布して、コンピュータをアップデートするようにします。

次のいずれかの手順を実行できます。

- ❖ **新しいサブスクリプションを参照するよう、既存のアップデートポリシーを変更する。**

操作方法の詳細は、[サブスクリプションを選択する](#) (p. 16) をご覧ください。

この場合、各エンドポイントコンピュータが次にアップデート版をチェックするタイミングで、新しいバージョンのソフトウェアがインストールされます。

- ❖ **新規アップデートポリシーを作成する**

操作方法の詳細は、[新規アップデートポリシーを作成する](#) (p. 16) を参照してください。

この場合、作成したポリシーをエンドポイントコンピュータに適用する必要があります。エンドポイントのソフトウェアが新しいバージョンにアップグレードされ、常に最新の状態に保たれます。

8.5.8 サブスクリプションを選択する

新しいソフトウェアのサブスクリプションを作成し、それをダウンロードするようにアップデートマネージャを設定した場合は、次に、新しいサブスクリプションを参照するよう、既存のアップデートポリシーを変更します。

1. 「エンドポイント」ビューの「ポリシー」ペインで、設定するポリシーを右クリックし、「**ポリシーの表示/編集**」をクリックします。
2. 「アップデートポリシー」ダイアログボックスで、「**サブスクリプション**」タブをクリックし、最新の状態に保つソフトウェアのサブスクリプションを選択します。

8.5.9 新規アップデートポリシーを作成する

1. 「エンドポイント」ビューの「ポリシー」ペインで、「**アップデート**」を右クリックし、「**ポリシーの作成**」をクリックします。
2. 新しいポリシーの名前を入力します。
3. 新しいポリシーを右クリックし、「**ポリシーの表示/編集**」をクリックします。
4. 「アップデートポリシー」ダイアログボックスで、「**サブスクリプション**」タブをクリックし、最新の状態に保つソフトウェアのサブスクリプションを選択します。

5. 「プライマリサーバー」タブの「アドレス」フィールドで、デフォルト設定を選択するか、各エンドポイントコンピュータが、通常、アップデート版をダウンロードする、別のネットワーク共有フォルダのアドレス(UNC (ネットワーク)パスまたは Web アドレス)を指定します。

デフォルトで、各コンピュータのアップデート元は、UNC 共有の \\<コンピュータ名>\SophosUpdate です。ここで、<コンピュータ名> は、アップデートマネージャをインストールしたコンピュータの名前です。

重要: HTTP アドレス (Web サーバー上でアップデート版を共有する場合など) や、集中管理するアップデートマネージャで管理していないネットワーク共有フォルダを使用すると、Enterprise Console のサブスクリプションポリシーで指定されているソフトウェアが、当該のアドレスからダウンロード可能かどうか自動的にチェックされません。アドレスに、サブスクリプションポリシーで指定したソフトウェアが存在するかどうかを手動で確認する必要があります。手動で確認しないと、コンピュータがアップデートされません。

6. Enterprise Console で Mac を管理する場合は、「アドレス」フィールドに UNC パスを入力したら、「Mac OS 専用のオプション」で、アップデート版のある共有フォルダへのアクセスに Mac で使用するプロトコルを選択します。
7. 必要に応じて、サーバーへのアクセスに使用するアカウントのユーザー名を「ユーザー名」フィールドに入力します。そして、「パスワード」を入力し、確認入力してください。このアカウントは、上記の「アドレス」フィールドに入力したネットワーク共有フォルダへの読み取り権限が必要です。

ヒント: 「ユーザー名」とドメイン名をあわせて指定する必要がある場合は、ドメイン名\ユーザー名 という形式で入力してください。

8. プロキシサーバー経由でアップデート元にアクセスする場合は、「プロキシの詳細」をクリックしてください。「プロキシの詳細」ダイアログボックスで、「プロキシ経由でサーバーにアクセスする」を選択します。そして、プロキシサーバーの「アドレス」と「ポート」番号を入力します。プロキシサーバーにアクセスするための「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。「ユーザー名」とドメイン名をあわせて指定する必要がある場合は、ドメイン名\ユーザー名 という形式で入力してください。

これで、作成したポリシーをコンピュータグループに適用し、指定したセキュリティソフトで最新の保護を提供できるようになります。

随時、使用するバンド幅を制限したり、別のアップデート元を設定したり、デフォルトのスケジュール設定、ログ、または新規インストール元を変更することができます。アップデートポリシーの設定に関する詳細は、Sophos Enterprise Console ヘルプの「アップデートポリシーを設定する」のセクションを参照してください。

[Enterprise Console と同じコンピュータ上のアップデートマネージャを設定する](#) (p. 18) の説明に従い、移行を続けます。

8.5.10 Enterprise Console と同じコンピュータ上のアップデートマネージャを設定する

Enterprise Console のすべての機能を使ってネットワークを保護するには、Enterprise Console の管理サーバーと同じコンピュータにインストールされている、アップデートマネージャを設定する必要があります。この設定を行うことで、Enterprise Console で必要な更新情報を取得できるようになります。この情報には、エンドポイント用セキュリティソフトの適切なバージョンに関する情報、データコントロール機能で使う新規・更新版のコンテンツコントロールリスト、新しい管理対象デバイス/アプリケーションのリストなどが含まれます。

アップデートマネージャを設定する方法は次のとおりです。

1. 「**アップデートマネージャ**」ビューで、Enterprise Console がインストールされているコンピュータを選択します。右クリックし、「**環境設定の表示/編集**」をクリックします。
2. 「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**アップデート元**」タブで、「**追加**」をクリックします。
3. 「**アップデート元の詳細**」ダイアログボックスで、「**アドレス**」フィールドのドロップダウン矢印をクリックし、デフォルトのアップデート用共有フォルダを選択します。この共有フォルダは、ソフォスのサーバーに接続するアップデートマネージャによって作成されるものです。

または、アドレスを入力するか、「**参照**」をクリックして共有フォルダを参照します。

デフォルトのアップデート用共有フォルダは、UNC共有の\\<コンピュータ名>\SophosUpdateです。ここで、<コンピュータ名>は、ソフォスのサーバーに接続するアップデートマネージャをインストールしたコンピュータの名前です。

4. 必要に応じて、ユーザー名、パスワード、およびプロキシ設定を入力します。

これにより、アップデートマネージャで Enterprise Console の更新情報がダウンロードできるようになります。

Enterprise Console と同じコンピュータのアップデートマネージャを用いて、ソフトウェアのアップデート版をネットワーク上のエンドポイントに配信するには、ソフトウェアのサブスクリプション、配布、スケジュールを、ソフォスのサーバーに接続するアップデートマネージャと同様に設定します。

必要に応じて、アップデートマネージャのログや自己アップデートのデフォルト設定を変更することもできます。それぞれ、「ログ」タブ、および「詳細設定」タブで変更します。

8.5.11 新しいアップデートポリシーを Windows コンピュータのグループに適用する

重要: SP3 以前の Windows 2000 を実行しているコンピュータでは、ソフォスのエンドポイントセキュリティ製品を、Sophos Endpoint Security and Control 10.0 にアップグレードしないでください。このソフトウェアは、Windows 2000 SP4 以降のみにインストールできます。

新しいアップデートポリシーをコンピュータのグループに適用する方法は次のとおりです。

1. 「ポリシー」ペインで、アップデートポリシーをハイライト表示します。
2. 選択したポリシーをクリックして、適用するグループの上にドラッグ & ドロップします。確認メッセージが表示されたら、続行することを指定します。

または、各グループを右クリックして、「グループポリシーの詳細の表示」を選択します。表示されるドロップダウンメニューから、そのグループに対するポリシーを選択できます。

次のアップデートのタイミングで、各コンピュータのセキュリティソフトが新しいバージョン、Sophos Endpoint Security and Control 10.0 にアップグレードされます。

注

- パッチエージェントを Windows コンピュータにインストールするには、「**コンピュータの保護**」ウィザードを使用してコンピュータを再保護する必要があります。コンピュータに以前のバージョンの Sophos Endpoint Security and Control がインストールされている場合でも操作が必要です。詳細は、Sophos Enterprise Console ヘルプの「**コンピュータを保護する**」を参照してください。

- Sophos Client Firewall のインストール中、ネットワークアダプタが一時的に切断されます。また、リモート デスクトップなどのネットワークアプリケーションが切断されることがあります。
- Sophos Endpoint Security and Control 10.0 にアップグレード後、各コンピュータに対して、Enterprise Console のコンピュータの詳細の「ポリシーコンプライアンス」カラムに「ポリシーと異なる」と表示されることがあります。これを修正するには、コンピュータを右クリックして「ポリシーの適用」をクリックし、該当するポリシー (複数可) をクリックします。

9 Compliance Dissolvable Agent のアップグレード

NAC Manager を使用している場合は、Sophos Compliance Dissolvable Agent をバージョン 3.7 または 3.5 からバージョン 3.9 にアップグレードできます。

Compliance Dissolvable Agent をアップグレードする方法は次のとおりです。

1. <http://www.sophos.co.jp/support/updates/> にアクセスします。
2. MySophos アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
3. Sophos NAC Compliance Dissolvable Agent バージョン 3.9 のインストーラをダウンロードします。
4. Sophos NAC Compliance Dissolvable Agent バージョン 3.9 のインストーラを起動します。
5. ウィザードの指示に従ってインストールを行います。以下に説明のないオプションは、デフォルトの設定をそのまま選択します。
6. 「**Sophos Server**」(ソフォスサーバー) ページで、NAC Manager をインストールしたサーバーの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。
 - Sophos NAC を複数のサーバーにインストールした場合、このサーバーのアドレスは、NAC データベース サーバーでなく、NAC アプリケーション サーバーの IP アドレスまたは DNS 名です。
 - 以後、NAC Manager のサーバーアドレスを変更する場合は、Web サーバーの Compliance Dissolvable Agent を再インストールして、インストール中に新しいアドレスを指定する必要があります。
7. NAC で HTTPS を利用している場合は、「**Secure Sophos Server (use HTTPS)**」(セキュアなソフォスサーバー (HTTPS 使用)) チェックボックスを選択してください。

Web サーバー証明書の IP アドレスまたは DNS 名は、NAC Manager サーバーと同じである必要があります。

10 テクニカルサポート

ソフォス製品のテクニカルサポートは、次のような形でご提供しております。

- 「SophosTalk」ユーザーフォーラム (英語) (<http://community.sophos.com/>) のご利用。さまざまな問題に関する情報を検索できます。
- ソフォスサポートデータベースのご利用。 <http://www.sophos.co.jp/support/>
- 製品ドキュメントのダウンロード。 <http://www.sophos.co.jp/support/docs/>
- メールによるお問い合わせ。ソフォス製品のバージョン番号、OS および適用しているパッチの種類、エラーメッセージの内容などを、support@sophos.co.jp までお送りください。

11 ご利用条件

Copyright © 2011 Sophos Limited. All rights reserved. この出版物の一部または全部を、電子的、機械的な方法、写真複写、録音、その他いかなる形や方法においても、使用許諾契約の条項に準じてドキュメントを複製することを許可されている、もしくは著作権所有者からの事前の書面による許可がある場合以外、無断に複製、復元できるシステムに保存、または送信することを禁じます。

Sophos および Sophos Anti-Virus は、Sophos Limited の登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

Common Public License

このドキュメントで言及されているソフォスのソフトウェアには、一般公衆利用許諾契約書 (Common Public License、あるいは単に CPL) に基づいてユーザーの使用が許諾 (またはサブライセンス) されているソフトウェア・プログラムが含まれています。または含まれている可能性があります。CPL に基づき使用が許諾され、オブジェクトコード形式で頒布されるいかなるソフトウェアも、CPL により、オブジェクトコード形式のユーザーへの、このようなソフトウェアのソースコードの開示が義務付けられています。CPL に基づくこのようなソフトウェアのソースコードの入手を希望する場合は、ソフォスに書面でお申込みいただくか、次のメールアドレスまでご連絡ください：support@sophos.co.jp。または次のリンク先よりご連絡ください：<http://www.sophos.co.jp/support/queries/enterprise.html>。ソフォス製品に含まれ

るこのようなソフトウェアの使用許諾契約書は、次のリンク先をご覧ください: <http://opensource.org/licenses/cpl1.0.php>。

ConvertUTF

Copyright 2001-2004 Unicode, Inc.

This source code is provided as is by Unicode, Inc. No claims are made as to fitness for any particular purpose. No warranties of any kind are expressed or implied. The recipient agrees to determine applicability of information provided. If this file has been purchased on magnetic or optical media from Unicode, Inc., the sole remedy for any claim will be exchange of defective media within 90 days of receipt.

Unicode, Inc. hereby grants the right to freely use the information supplied in this file in the creation of products supporting the Unicode Standard, and to make copies of this file in any form for internal or external distribution as long as this notice remains attached.